

二中コミュニティ・スクールだより

～市川市立第二中学校学校運営協議会～
「夢・命・絆」

令和4年度第2号
(通算第12号)
会長 小林 俊之
(文責 野手 裕之)

「令和4年度第2回学校運営協議会」報告

令和4年9月30日(金)に、令和4年度第2回学校運営協議会が、真間小学校において、委員8名の出席のもとで開催されました。

協議会后、真間小学校体育館で、二中ブロックの学校運営協議会委員による交流会がありました。

次第

1. 協議
・学校評価について
2. 報告および意見交換
(1) 学校の様子について
(2) 単元テストについて
3. その他

小林会長のあいさつ

協議に先立ち、小林会長から次のような挨拶がありました。

お忙しい中、委員の皆様にはご出席していただきまして、ありがとうございます。

コロナの状況も、来年には収まるということも耳する一方で、感染の再拡大も懸念されております。

そのような中で、中学生のために、学校運営協議会の委員の皆様と対面で意見交換ができることは、とても嬉しく感じております。この機会に、子どもたちのために、熟議をして、より良い学校運営に貢献できましたら、幸甚でございますので、よろしくお願いいたします。



小林会長

本校学校協議会の小林俊之会長が、令和4年度市川市自治会連合協議会の会長に就任されました。小林会長は、二中学校運営協議会の初代会長としてはもとより、これまでも菅野小PTA会長や二中PTA会長として、さらに、いろいろな立場で、長年、二中ブロックの子どもたちのために活動して頂きました。引き続き、子どもたちのために、お力添えいただきたいと思います。

1. 協議

学校評価アンケートについて協議を行いました。それぞれの項目について、アンケート結果や学校としての対応などの説明を受けて、各委員から意見がありました。なお、アンケート結果そのものについては、別途、「学校だより」などを参考にしてください。

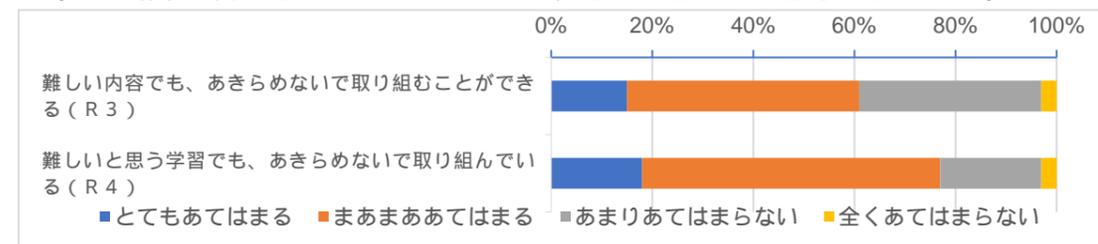
確かな学力について

保護者アンケートの結果は、令和3年1月と令和4年7月との比較において、おおむね同程度ないし若干の向上がみられることは望ましいと考えられるという意見がありました。なお、生徒アンケートの「授業で分からなかったり、困ったりすることがあった場合、先生方は丁寧に対応してくれる教科がたくさんある。」に対して約86%があてはまるという点は望ましいものの、保護者アンケートにおける「生徒一人一人に応じた丁寧な学習指導を行っている」が、否定的な意見が約40%ということに対して、自由進度学習や単元テストなどの取り組みについて周知する必要があるという意見がありました。

単元テストに対する保護者アンケートの結果について60%以上が肯定的な評価をしている一方で、自由記述の内容を踏まえて、委員からは単元テストについての意見が多く上がりました。

学習習慣を身に着けるといった側面や知識の定着といった側面から、単元テストに対して有効であるという意見がある一方で、課題として、理解度を確認してしっかりとフォローすることに一層努めて欲しいという点と効果などについての理解を促進することの必要性があるという点が求められました。関連して、テスト期間がなくなって部活動の休みがない状況に、子どもたちの疲労感を感じるという保護者の意見に対して、委員から子どもたちの時間のゆとりを確保する必要性が指摘されました。

そして、生徒アンケートにおける「難しいと思う学習でも、あきらめずに取り組んでいる。」の結果が向上している点については、とても望ましいと考えられます¹。



豊かな心について

生徒アンケートにおけるいじめに関する結果について、昨年の調査と比較して、「とてもあてはまる」と「まあまああてはまる」の割合は同じ程度ではあった(約90%がいじめは理由を問わずいけないと思っている)ものの、「とてもあてはまる」が69%から64%になっている点に、委員から心配の声がありました。また、「二中の先生方は、話を聞いて欲しい時に話を聞いてくれると思う」についても、「とてもあてはまる」と「まあまああてはまる」の合計は、昨年と同様に80%以上ではあるものの、「とてもあてはまる」の減少についても、引き続き、生徒一人一人を大切にされた対応が望まれます。

¹ 困難に立ち向かったり粘り強くやり抜いたりするスキルは、非認知能力の1つとして非常に重要なスキルと考えられます。

それから、自己肯定感に関するアンケート結果(「私には、良いところがあると思う」や「私はクラスの人から信頼されていると思う」など)の改善がみられた点は、委員からも肯定的な意見がありました。なお、自己肯定感(自尊心)は、非認知能力の1つにあげられる一方、非認知能力の育成の基礎ともいわれ、子どもたちにとって非常に重要なものであり、引き続き、その向上のために、学校とともに家庭や地域で協力していくことが大切であると考えられます²。

健やかな体

保護者アンケートで規則正しい生活習慣(睡眠・食生活など)が身についているに對すると思うとやや思うが約66%から76%となっていますが、規則正しい生活習慣は、非認知能力(自尊心、共生感、意欲・関心、職業意識、へこたれない力など)に影響することから³、これからも注視して欲しいと思います。

信頼される学校

「二中は、安心して生活できる学校であると感じる」や「二中に入学して、よかったと思う」の生徒アンケート結果は、全体として昨年とほぼ変わらない結果でしたが、「とてもあてはまる」が減少していることは心配されるところです。安心感、言い換えれば、アタッチメント(特定の相手との情緒的絆)は、自己肯定感や非認知能力の基礎となるものなので、学校・家庭・地域のそれぞれで子どもたちを大切に育てていきたいと感じます。

市川市PTAバレーボール大会

市川市PTA連絡協議会主催のPTAバレーボール大会が、7月3日(1日目)と9月4日(2日目)に塩浜体育館で行われました。

二中PTAチームは1日目の初戦(2回戦目)に勝利し、2日目の3回戦に臨みました。素晴らしいプレーの数々でしたが、惜しくも敗れてしまいました。



² 自己肯定感(self-esteem)は、「自分のことが好きである」、「大事にされている」、「共感し合える人がいる」、「他人から信頼されている」などによって調査されますが、それは、「心理的生存に不可欠である。これは生存のための必要条件であり、これなしでは基本的な欲求が満たされず、人生は非常に苦痛に満ちたものとなりかねない。」(マシュー・マツケイ&パトリック・ファニング著、高橋祥友訳「自尊心の育て方」金剛出版、2018年)といわれるほど大切なものです。

³ 「早寝早起き朝ごはん」全国協議会「『早寝早起き朝ごはん』の効果に関する調査研究報告書」2021年3月。

研修報告

6月17日に、千葉県教育委員会主催「地域学校協働活動推進員研修講座」が行われました。

文部科学省CSマイスターで文部科学省学校地域協働部会専門委員である竹原和泉先生による「コミュニティ・スクール(CS)と地域学校協働活動について」の講義があり、これからのコミュニティ・スクールについて、**学校運営について熟議し、共に責任をもって、それぞれの立場で動くこと、そして、「社会に開かれた教育課程」の実現のために地域学校協働活動につなげることが大切である**といったお話がありました。

その後、柏市立土南部小学校と市川市立第二中学校ブロックによる実践発表があり、ブロック統括推進員(菅野小学校運営協議会委員)の山口好子さんと二中推進員(第二中学校運営協議会委員)の野手裕之さんが発表を行いました(下記は二中ブロック発表の最後のスライドです)。

8月23日に、千葉県教育庁主催「コミュニティ・スクール研修会」が行われました。

東京学芸大学副学長松田恵示先生による「CS及び地域学校協働活動の一体的推進に向けた取組について」という講演があり、**考え方は人それぞれだからこそ、みんなで話し合うことが大事で、学校運営協議会は、参加者みんなが当事者意識をもって違いを認め合いながら合意形成していく場とすることが必要である**という内容でした。

その後、市川市立第二中学校(石田校長)による学校にとってのコミュニティ・スクールのメリットなどについての実践発表を動画で視聴しました。

研修後には、サテライト会場に集まった参加者で意見交換などを行いました。



市川市役所第2庁舎のサテライト会場の様子

おわりに

子どもたちのために
多くの大人がかかわることは、
➤子どもたちのためであるとともに、
➤地域のためでもあり、そして、
➤それは、自分自身のため。



その他の内容については、千葉県教育委員会のホームページに掲載されています(左記QRコードからどうぞ)。

合同防災訓練のお知らせ

11月20日(日)10時~12時に、菅野小学校校庭で菅野・須和田地区自治会連合会主催の合同防災訓練(通報連絡訓練、初期消火訓練、地震体験訓練、防災備蓄品利用訓練、簡易トイレ・簡易担架の組立訓練、応急救護訓練など)が行われます。雨天中止です。

申し込みなどについては、加入している自治会からお願いいたします。なお、自治会に加入していない方であっても参加可能です。希望される場合には、菅野小学校区防災拠点協議会委員の野手さん(nodeyuji@nifty.com)まで。